



平成武師道

(人間活動学)

『あれから』



参議院選挙に立候補してからもうすぐ3年が経とうとしている。

街では、各党が今回の参議院選挙の活動を始め出してきた。

その様子を見ると、3年前を思い出す。

真夏のとても暑い中を、街頭演説をし、全国に飛び回りながら一人一人と握手をしていく。

とにかく無我夢中に動き回っていた。

今から思えば、肉体的にも精神的にも金銭的にも苦しい時間であったはずなのだが、それ以上に選挙活動で学んだり、経験する事が多く、あの期間は楽しく時間を過ごせた。

いろいろある私の経験の中でも、あの時の選挙活動は、5本の指に入る重要な経験の一つであったのは間違いないだろう。

政治家というものも経験してはみたかったが、こればかりは仕方がない。

でも今となっては、政治家になっていたらできなかった事ができている。

「バラいろダンディ」という番組のコメンテーターを毎週レギュラーで出演させてもらっているのだが、政治家の不祥事ネタを扱った時には、言いたい事を思い切り言わせてもらっている。

この様に、改めて民の立場から政治家を見てみると、本当にろくでもない政治家が多過ぎるのが分かる。

東京都知事の舛添要一氏も昔から知っていて、食事もした事もあるし、選挙の応援を頼まれた事もあった。

しかし、その時から何となく胡散臭い印象があり、選挙の応援はしなかった。

今回の問題で叩かれる前に、あるパーティーの席でお会いしたのだが、知事になるとこんなに偉ぶるのだなぁと感じ、これはいつか駄目になると思っていたら、あのザマである。

地位と名誉に溺れてしまった典型的なパターンであろう。

ひょっとしたら私も政治家になっていたら、美術品と同じように怪獣のオモチャを政治資金で購入していたかな？

いやいや、そんな事が通じないのは私でも分かる。

テレビで舛添要一氏を、ゲゲゲの鬼太郎に出てくるネズミ男に例えていた。

確かに似ている。

東京都の顔がこれでは駄目だ。

華があり、人の見本となり、何よりも道徳心をしっかりと持った人が政治家でなければいけないはずなのに、実際はほとんどの政治家は口では良い事を言うが、行動は真逆。

政治家の本当の資質は、選挙だけでは分からない。

しかし、政治家を選ぶには選挙しかない。

これが現実であり、世の中の仕組みなのだ。

また選挙が始まり、政治家のペコペコタイムショーの始まりだ。

負け惜しみでもなく、今では本当に選挙に落ちて良かったと思う。

落ちたからこそ見えたものが、次のステップの私を作ってくれた。

よく人からは、「選挙は出ないの？」と聞かれる。

現時点では、ムリ。

この後、ポピュリズムを動かし、天命が動けば考えるが、今はムリ。

それよりももっと身近な幸せを積み重ねていく事を忘れてはいけない。

前回の選挙で一番学んだ事がこれであった。

ちょうどこの文章を書いていると、大きな音を出して街宣車が街を走って行った。